

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900345		
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会		
事業所名	阿児認知症対応型グループホーム 真珠荘		
所在地	志摩市阿児町鶴方小入口3503-10		
自己評価作成日	平成28年9月18日	評価結果市町提出日	平成28年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2472900345-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaiokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2472900345-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 10 月 13 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元保養所を活用した施設のため、居室からはたくさんの緑がみることができ静かな環境で過ごして頂けます。7名のご利用者でゆったりと過ごすことのできる広さがあり、個々が思いおもいのペースで過ごして頂ける様に取り組んでいます。  
個別で買い物に出掛けたり、外出をするなど個別対応を大切にしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保養所だった利点として建物が堅固であり安心である。高台なので見晴らしが良いことと、水害の心配がない。1日のタイムスケジュールはあるが、利用者は思い思いの生活スタイルがあるので、事業所のタイムスケジュールに合わせなくても良い個別に対応した過ごし方している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホーム理念の「敬意をもって、個性を活かし、ぼちぼちと」の通りにご利用者様個人が出来ることを自身のペースで行って頂いています。	理念どおり1日のタイムスケジュールはあるが、利用者は思い思いの生活スタイルがあるので、無理やり事業所のタイムスケジュールに合わせなくても良い個別に対応した過ごし方を優先している。	職員や利用者、家族に理念が直ぐに分かる掲示や印刷物がないので、今後は事業所が大事にしていることや取り組んでいることが分かる掲示物や印刷物の用意と、職員が実践共有する努力を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会へ加入し、清掃活動への参加や、盆踊りへのお誘いなどを頂き地域との交流を図っています。	自治会の会合に事業所から参加したり、系列の保育園から児童が来訪して交流がある。また、10/2に市民病院の祭りに利用者全員が参加して洗顔セラピーを受けて楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉フェスタへ協力し、地域の方々とつながる機会を持っている。2か月に一回の運営推進会議では民生委員に参加して頂き助言頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際は、施設の現状の報告や、ボランティアによる慰問の相談、地域の状況を教えて頂くなどの意見を頂きサービス向上に努めています。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。利用者や家族からの参加が得にくい、行政からと地域住民の自治会長、民生委員、老人会会長の参加を得ている。会議では利用者の生活状況の報告をし、地域のイベント情報を教えてもらっている。介護保険課から防災についてアドバイスもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席や、志摩市主催の研修へ参加顔の見える関係づくりに取り組んでいます。	運営推進会議に出席した折に防災についての意見を伺ったり、成年後見制度についての意見交換をしている。県立志摩病院で行われる各種研修の案内ももらい参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる職員会議にてカンファレンスを行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。現在、生活スペースが1階と2階に分かれており死角が多い為玄関は施錠させて頂いているが、定期的買い物や外出の支援をさせて頂いている。	毎月行うカンファレンスで身体拘束を行わないケアについて話し合っており、急な徘徊への対応なども話し合い実践している。玄関は常時施錠しており、居室のサッシも全開にならないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる職員会議の中でカンファレンスを行うことで、ご利用者様一人ひとりの状態に目を向け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はみえず、今後利用されている方が入居されたときに対処できるように学ぶ機会を持っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、契約書重要事項の説明を行い、その都度質問などがなく確認させて頂いている。また、ご利用料が変更になる際もご家族様へ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対応の変更や、体調の変化に合わせご家族様へ電話連絡や面会の際に説明を行い、意見を頂戴し運営に反映させている。	家族とはケア内容の変更などで電話での会話が多い。毎月の請求書送付時に職員からの便りを送っており、家族からの意見記入された返信も多い。家族からの要望で専用のシャンプーに変更した利用者もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議の場で、業務の見直しや、取り組みの提案を行い事業へ反映している。	毎月職員会議を開催して意見交換しており、施設長が参加するときもある。タイムスケジュールを見直して業務改善につながったこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で今年度より開始となった人事評価制度にて各職員への目標設定、行動評価を行うことでやりがいを持って働ける環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では定期的に研修を実施しスキルアップに繋げている。法人外の研修にも極力参加出来る様にしている。事業所内で業務を分担し役割を持つ事で個々のレベルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志摩市介護事業者連絡会、外部研修へ参加し近隣の事業所の方々とは良好な関係を築けているように感じている。定期的に会合に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居調整の際に本人からの聞き取りはもちろんの事、家族や前任の介護支援専門員への聞き取りなどを行い、安心してサービスが開始して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や希望を確認させて頂き、不安な部分はいつでも相談が頂ける様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をもとに必要とされている支援を検討し、ご利用開始の際にはその方に見合ったサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てを行わずご利用者様で出来る部分(洗濯干し、部屋の戸締り、食事の汁物作り)を行って頂き役割を持って生活が出来るように支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別対応への相談・協力や受診の際の相談を行いご家族にも支援に参加して頂けるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や知人などが面会に来ていただき、これまでの関係が途切れないように努めている。	定期的に昔の仕事仲間や兄弟が面会に来訪がある。散髪も定期的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様の性格や認知症の症状にあわせて一対一の対応や職員が介入することで関わりを持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された時には情報提供を行い、必要時はその後も適宜相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月全ご利用者様のカンファレンスを行い意見を出し合い希望、意向に沿った支援が出来るように検討を繰り返している。	日々、何気ない会話から得られた利用者の思いや暮らし方の希望を職員が参加するカンファレンスで情報交換して、なるべく利用者の意に沿った暮らしが支援できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のケース記録に趣味や習慣を記録し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事量であったり、何をされていたか、健康状態を記録し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族への相談、定期受診、毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、現状に合ったケアが提供出来るように努め介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスでモニタリングが行われている。3か月に1回の見直しで、職員とケアマネジャー、看護師の参加で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子や健康状態を記録し、対応の変更などは連絡ノートで周知しすぐに対応出来るように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対して職員間で検討し合いながら事業所で可能な範囲で対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物や散髪などを通して地域の一員としてつながりを大切に楽しんで生活が送れるように支援させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関の説明を行った上で、ご本人様の希望される医療機関へ毎月定期的に受診して頂いている。	利用者の6名が協力医、1名は他の医療機関をかかりつけ医としており、職員が受診同行している。同行時には多くの会話が出来るメリットがある。歯科を受診している利用者はいないが眼科と整形外科はいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と情報を共有し、ご利用者様の ADL、健康状態の維持に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より病院の研修会などへ参加し顔の見える関係作りに努めている。入院者が出た場合は情報提供を行いスムーズな調整が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を頂いている。また、状態の変化に伴いその都度ご家族様、主治医へ相談し方向性の確認を行っている。	事業所で看取りを実施していないが、利用者は重度化した場合における指針に同意している。状態の変化時には家族と主治医と相談の上、その後の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを活用し事業所内での会議で緊急対応、連絡体制について確認している。看護師により様々な症状について注意点の確認、周知を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署員立会いの下での訓練と、毎月の訓練を実施し有事の際に備えている。自治会への避難訓練へも参加している。	地震と火災を想定した防災訓練をしている。その内1回は消防署立会いの自治会主催である。AEDの使用方法もある。夜間に火災が発生した時に2階から利用者を避難させられるか現在の課題として上がっている。備蓄している食糧は350食ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議にて接遇に関する研修を行い、ご利用者様に対する言葉使い、接し方について常に意識する事が出来るように取り組んでいる。	接遇研修をしている。丁寧な言葉使いを指導している。急かさなように指導声掛けもしている。	言葉使いや接し方に努力しているが、利用者の言葉を聞くだけでなく、日々の態度や表情から個々人の感情を読み取り、今以上に利用者を尊重したりプライバシーを確保する努力を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様自身が衣類や嗜好品を選択して頂ける様に常に声かけ対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々ご利用者様の状態を観察し、カンファレンスを行いながら個人が望む生活を実現できるように支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身の好みを尊重し、自身で作った洋服などを着て頂いたり、毛染めなど身だしなみにも気を使って頂ける様に支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の汁物作りや、おやつ作り、食事前の準備片付け等出来ることを継続して行っている。	真空調理されたおかずが業者から配達され、ご飯や汁物は職員が作っている。それに使用する具材などを利用者と一緒に買い物に行くこともある。職員は一緒に食事をしないが毎回、職員の検食はある。検食の会議も行っている。誕生日にケーキが出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算された食事メニューの提供。摂取量の記録。ご利用者個人の体の状態に合わせた水分の提供や一日の大体の水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ行い実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、定期的に声かけ、誘導を行い自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を利用し回数の把握に努めている。	布パンツを使用している利用者は1人だが、誘導によりパルーンをはずすことが出来た利用者がひとりいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリを行い定期的な排便の促しを行っている。水分摂取量を活用し管理に努めている。主治医へ相談し必要時は服薬にて排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ボイラーの老朽化により現在入浴の日を決めて入浴して頂いている。場合によっては個別に対応させて頂く事もある。	機械浴も備えているが、1人で入浴するには勿体ないぐらいの広さがある浴場である。2日に1回の入浴を行なっている。利用者が楽しめるように入浴剤を使用しており、他に柚子湯や菖蒲湯にして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせて日中でも居室で休んでも頂いたり、食後少し横になる時間を作りご自身のペースで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により薬の残量のチェックや、服薬内容の確認を行い受診の際には主治医へ相談出来るようにしている。服薬内容の変更がある場合は連絡ノートにて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る力を活かし役割を持って頂いている。可能なご利用者様にはご自分の洗濯物干し、居室の戸締りなど日常的に行うことも行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や散髪、ご利用者様との買物等の外出活動を行っている。ご家族様の協力も頂きながら実施している。	日常的な散歩や軽いドライブを楽しんでもらっている。ドライブ時にはおやつを買って楽しんでいる。また、全員でスペイン村に行ったりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った際はご利用者様自身で支払いを行って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望の際は電話や手紙を書く事の支援をさせて頂いている。定期的に発行している新聞にも家族へのコメントを書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度よりレイアウトを大きく変更しよりご利用者様が穏やかに過ごして頂ける空間づくりに取り組んでいる。	保養所を利用した事業所なので共用空間は広く、様々なイベントにも利用できる広さである。天井が高いのも開放的であり、リビングから見える芝生やベンチは絵画のような光景である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースの設置や一人で座ることの出来る机を設置しそれぞれが思うように過ごして頂ける空間づくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや布団を持ち込んで頂きプライベート空間を大切に心地良く生活が送れるように工夫している。	居室は床の間がある和室であり、広々としている。家族が来訪して布団を敷いて一緒に寝ることも可能である広さとなっている。隣の居住者と完全に離れたプライベートが保たれる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	保養所を改装し利用している施設であることから手すりや、昇降機、エレベーターを設置し安全に移動し自立した生活が送れるように工夫している。		